



賛助会員・機関誌購読者のみなさま、および  
「3.11 からの出発」活動基金にご寄付くださったみなさまへ

2014.7.20

## 「3.11 からの出発」活動のご報告 No.14

### 陸前高田こども図書館「ちいさいうち」2013 年度活動報告

昨年度も、訪れる子どもたちが心から寛いで過ごせるよう、図書館の雰囲気づくりに心を配りながら、一人ひとりの子どもとしっかりと向き合って本を繋ぐことに力を注ぎました。1日当りの利用状況は、昨年より貸出者数が22%、貸出冊数が28%増加しました。一昨年の開館時から継続して利用している子どもも多いですが、新規の子どもの登録も増えています。絵本が大好きなNちゃん（3歳）は、借りるつもりで選んだ本も、待ちきれなくて館内で読み終わってしまうこともしばしばです。『おなら』を読んだ時には、「Nね、おにくをたべるから、おなら、くさいの」と、そっと教えてくれました。中高生の利用はあまり多くありませんが、「本に囲まれていると安心する」と言って、絵本を1時間以上読み続けていた中学生女子もいました。

込み入ったレファレンスの質問が増えてきたこともあり、ノンフィクション資料の受け入れを増やしました。ある雪の日、Mちゃん（5歳）が「今朝家のまわりに付いてた動物の足あとを調べたい」と来館しました。『どうぶつのはしあがたずかん』を見て、「ライオンじゃないね」「サルでもない」と首をひねっていましたが、数冊の動物図鑑を見比べるなかで、足型についてまとめたページを発見し、「タヌキか、テンだ!」とニコリしました。子どもたちの探究心に応えられる資料を準備し、提供することは、図書館と利用者との信頼関係構築に大きな役割を果たすと考えます。小さな疑問もできる限りひろって、子どもたちの知るよろこびに繋げていきたいと思っています。

催しについては、月2回の「おはなしのじかん」の他、「ぐりとぐらの大きなカステラをつくろう!」「夏の夜のおはなし会」「民族音楽をたのしもう」「翻訳シールをはって、カンボジアに絵本を届けよう（全2回）」「わらべ唄あそびの会」「たのしい工作会（全3回）」「はたらくるまを見に行こう」「クリスマス会」「お手玉とわらべ唄であそぼう」「絵本講座（全4回、大人対象）」を行いました。このうち、2度目の開催となる「クリスマス会」では、利用者の子どもたち数名も、スタッフとして参加しました。ミーティングを行い、係分担をして、飾りつけ・司会・演目の一部を一緒に行いました。予想していたよりもみな積極的に動いてくれて、たいへん頼もしかったです。お客さまも、館内がぎゅうぎゅうになる程きてくれて、ペープサートの途中で暗幕が落ちるトラブルもあったものの、あたたかく楽しい催しとなりました。

震災発生から3年の月日が経過し、陸前高田市も少しずつ復興の道を歩んでいます。しかし、依然、小中学校の校庭等には仮設住宅の棟が建ち並び、当館を利用している子どもたちの多くは仮設住宅で暮らしています。通学路も終日、大型の工事車両や重機が往来しており、子どもたちをとりまく生活環境はまだ不安定です。けれども、一緒に絵本や図鑑をひらいて読みあったり、借りていく本を選んでいる時の子どもたちの表情は生き生きとして、屈託なく笑い、自分の心のおもむくままに本を手にとってあたらしい世界を広げています。子どもたちが本に手を伸ばしているのだけれど、本の方も子どもたちに向かって、「おいで!」「さあ、こっちにも!」

【活動状況】 ( )は昨年度

登録者数	426人(244)
開館日 (4/1～3/31)	火・水・金・土・日 250日(248)
利用者数 (閲覧者含む)	総数 4,274人(3,585)
	1日当り 17.1人(14.5)
貸出冊数	総数 7,031冊(5,456)
	1日当り 28.1冊(22)
貸出者数	総数 1,919人(1,545)
	1日当り 7.7人(6.3)
レファレンス総数	81件(118)
蔵書数	4,202冊(3,739)



と手を広げているように感じられます。この、こども図書館で過ごすひと時が、そしてここで出会った本が、子どもたちの栄養になり、たくましく成長していく力となることを願い、その支えとなれるようにこれからも努めてまいります。

(ちいさいおうち担当司書 中井佳織記)



## 2014年度 第1回 小友小学校訪問記

6月18日、松岡理事長に随行し、初めて陸前高田市を訪問しました。朝、迎いの車に乗り込み、気仙沼のホテルを出発すると、山道に入るにしたがい辺りは霧に包まれました。山を抜け、本来ならば目前に広がるはずの海を霧の向こうに想像しながら、ふと、空を見上げると、何やら異様なものが目に入りました。頭上20メートルあたりに細い橋のようなものが山側から平地に向かって幾つも伸びているのです。聞くと、これは市街地再生に向け、地面を底上げするための土砂を山から効率よく運ぶためのベルトコンベアとのことで、霧の中、まるで巨人の脚のような支柱を横目に、小友小学校へ向かいました。

お話会では、私はアフリカ、タンザニアでの青年海外協力隊経験をもとに子どもたちに話をしました。タンザニアでは人々が器用に物を頭にのせて運ぶことや、なんでもあるものを使って、サッカーボールやおもちゃを作っている様子を話すと、子どもたちはみな目を丸くして聞いてくれました。高学年には、タンザニアの子どもたちと繰り返し読んだ「おおきなかぶ」も、スワヒリ語をまぜながら読みました。震災の3ヵ月後に日本を離れ、2年間をタンザニアで過ごした私は、これまでの厳しい復興への道のりを実感できていないことをもどかしく感じていました。今回、このような機会を頂いたことで、タンザニアと日本の子どもたちが少しつながったのなら、嬉しく思います。

お話会を終え、学校の外に出ると、霧は晴れていました。思っていたよりも、近くに、穏やかに、海がありました。そしてこれから建物の再建を待つ台地には一面クローバーが茂り、ようやく今年から復活した田んぼには、青々とした稲が揺れていました。タンザニアを含め、世界の国々が指針とする日本の粘り強さは、ここにある、と感じました。

(鈴木晴子記)

鈴木さんの報告にあるように、今回は霧に迎えられての陸前高田入りでした。土地の人たちは「やませ」と呼んでいます。わたしは、これまでやませとは風のことだとばかり思っていたので、ひとつ新しい勉強をしました。やませの年は冷夏といわれているそうですが、瓦礫のあと、せっかくみどりに戻った田んぼに豊かなみどりを願わずにはいられません。

小友小学校の子どもたちは、鈴木さんのタンザニアの話に魅了されたようでした。タンザニアに行ってみたくて感想を述べた子もいて、こんなふうには遠くの世界に目がのびていくのは、なんていいことだろうと思いました。

学校にはプールが完成していました。6月27日にプール開きをするとのことでしたが、なんと当日の正午のNHKニュースで、その様子が放映されました！顔見知りの子どもたちが画面に現れたのに思わず歓声をあげてしまいました。校長先生のお話では、その日は、プールで紅白の餅まきをするのだということでしたが、その場面は残念ながら画面には出てきませんでした！

夏休み前に贈る本の希望をとり、発送の準備をすすめているところですが、高学年の子どもたちからの注文が、『思い出のマーニー』に集中しています。何人の子どもたちが読み通し、心にとめてくれるでしょうか。たのしみです。

(2014年7月13日 松岡享子記)

公益財団法人 東京子ども図書館

〒165-0023 東京都中野区江原町1-19-10 Tel.03-3565-7711 Fax.03-3565-7712 URL <http://www.tcl.or.jp>

振込先 ゆうちょ銀行/郵便局 口座記号番号 00130-9-115393 加入者名 公益財団法人 東京子ども図書館

\*報告のバックナンバーは、ホームページでもお読みいただけます。